

[成果情報名] 鳥出川支流におけるハナカジカ生息地の水温条件

[要 約] ハナカジカの生息地である月光川水系における分布域内の最高水温は 18℃より高くなることがなかったという報告があるが、ハナカジカの生息地である鳥出川支流の水温を測定した結果、分布域内の最高水温は、月光川水系のそれらよりも高い傾向があった。しかし、鳥出川支流の生息環境は良好であると考えられることより、他の生息地のハナカジカとは異なる水温条件に適応している可能性が示唆された。

[部 署] 内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] Tel.0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] ハナカジカ、最高水温、月光川水系、鳥出川支流

[背景・ねらい]

Yagami & Goto (2000) が本県の月光川水系で実施した調査では、最高水温がハナカジカの分布にとって最も重要な要素であることが報告されている。この調査では、水温が最も上昇する夏期の最高水温が低い場所ほど生息密度が高く、生息分布域の最高水温は 18℃より高くなることはなかった。ハナカジカ分布の南限である県内には、他にも生息地が確認されており、生息地の水温測定を続けてきた。そのうち、小国川水系鳥出川支流におけるハナカジカ生息地の水温条件について、新たな知見を得たので報告する。

[成果の内容・特徴]

1. 小国川水系鳥出川支流のハナカジカ生息地内に自記水温計を設置し、春から秋にかけて 1 時間毎の水温を測定した。日間の最高水温をプロットしてグラフにした結果を図 1 に示す。
 2. 月光川水系での調査結果とは異なり、平成 13 年と 14 年は最高水温が 18℃を上回る日も少なくなく、平成 13 年は 30 日、平成 14 年は 36 日であった。平成 15 年は、最高水温が 18℃を超えた日はわずか 4 日のみであったが、これは、冷夏の影響で水温も上昇しなかったためであると考えられる。
 3. 小国川水系鳥出川支流のハナカジカ生息環境は、図 2 に示すように、当歳魚の加入や 2 歳魚や 3 歳魚も確認されることより、良好な状態であると考えられる。
 4. 以上のことより、鳥出川支流に生息するハナカジカに対して、以下の 2 つの可能性が示唆された。
 - ① 水温が上昇する夏期には、ハナカジカは最高水温が低いと思われる上流部に移動している。
 - ② 県内の他の生息地（大樽川水系笹原入沢や真室川水系焼山沢）のハナカジカとは異なり、夏場の最高水温が高めの支流でも生息できるように、環境に適応している。
- 今後は、これらの点に注意して調査を続けていく必要がある。

[成果の活用面・留意点]

小国川水系鳥出川支流の水温条件が、ハナカジカに適しているのかどうかを調査していく必要がある。

[具体的なデータ]

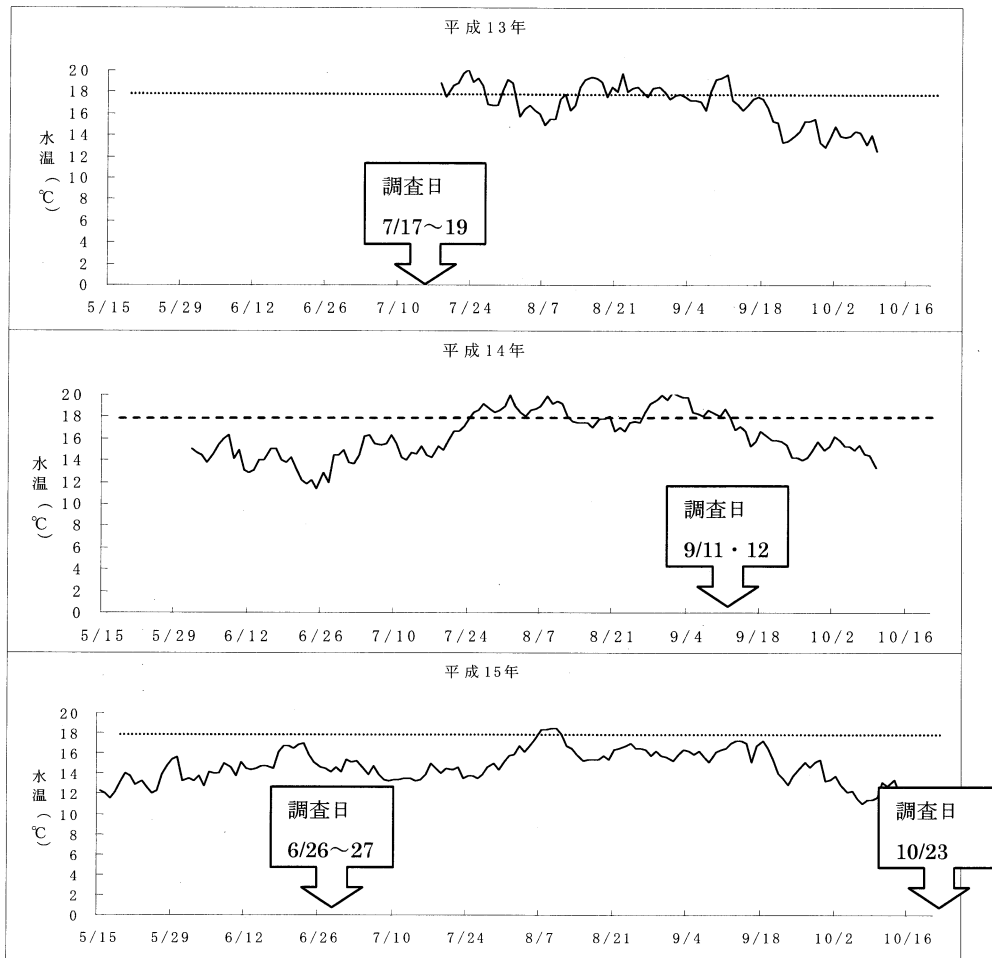


図1 小国川水系鳥出川支流におけるハナカジカ生息地の水温変化

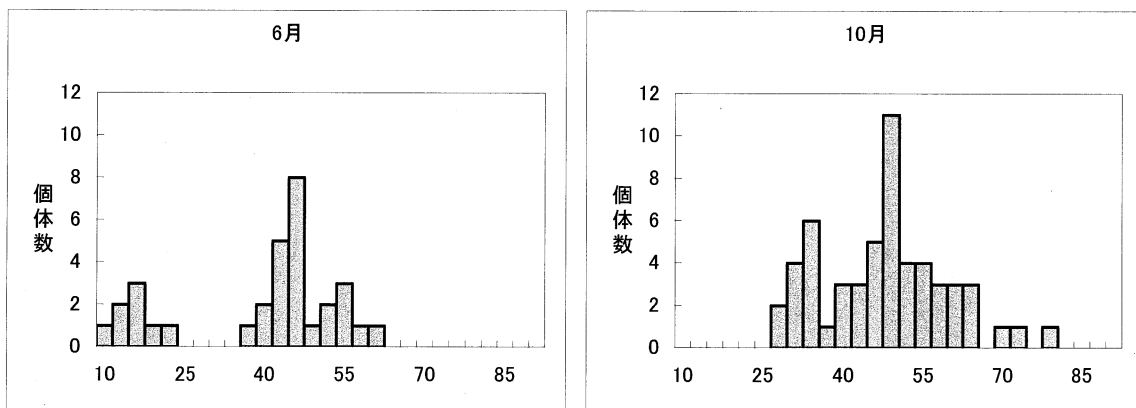


図2 小国川水系鳥出川支流におけるハナカジカの全長組成

[その他]

研究課題名：希少水生生物増殖保存試験
 予算区分：県単
 研究期間：平成15年度（平成13年～15年度）
 研究担当者：河内正行
 発表論文等：なし